

## 一般選抜・関連科目

### ●教育学に関する問題

#### 【問題】

児童・生徒が主体的に学習に取り組む態度を養うための実践プランについて具体的に述べなさい。

#### 【解答 or 解答例】

本問は多様な解答が成立するオープンクエスチョンであり、唯一の模範解答はありません。以下は出題意図に沿った参考例の一つです。

児童・生徒が主体的に学習に取り組む態度を育てるには、自分で課題を設定し、調べたり考えたりしながら学び、振り返る一連の学習を重視することが大切である。

具体的には、単元の最初に ICT も活用しながら、身近で具体的な事象や資料（写真・動画・統計データなど）を提示・共有し、気づいたことや疑問点を書き出させる。その際、問いを整理するために、「なぜ」「もし～なら」といった発問の手がかりを与え、学習課題を自分ごととして考えられるよう支援する。個人で出された問いは、ペアやグループで共有・分類し、重要性や共通性の観点から学習課題と関連する問いを選ぶ。その過程では、互いの考えを説明し合い、他の人の視点も取り入れる教え合いを行うよう促す。

教師は、机間を回りながら説明や質問のポイントを示し、教え合いが形だけにならないよう支援する。また、単元の流れや活動の手順を簡単に示し、各時間のめあてを共有して学習の見通しを持たせる。さらに、チェックリストなどを使って自分の学習の進み具合を振り返り、必要に応じて進め方を改善できるように支援する。こうした過程を通じて、粘り強く学習に取り組む態度を育てる。

こうした取り組みを日常的に続け、短時間の振り返りや問いの共有、教え合いを重ねることで、児童・生徒が主体的に学習に関わる態度を自然に身につけられるようにする。

#### 【出題意図】

教育学専攻の大学院生として、「児童・生徒が主体的に学習に取り組む態度を養うための実践」という問題について、学習指導要領の内容や、それに基づいた教育実践を通じた学びの蓄積を踏まえて、考察を深めた形跡が見受けられるかについて判断するための問題です。

## ●初等教育に関する問題

### 【問題】

現在、21世紀をたくましく生きる人間性豊かな児童の育成が求められており、教育現場では創意工夫を生かした学校づくりが進められています。令和元年度から令和5年度まで文部科学省研究開発学校の指定を受けた目黒区教育委員会は、「学校教育法施行規則第51条の規定によらず、1単位時間を40分(40分×1,015コマ)とし、創意工夫ある教育課程、各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行ったこと」を報告しています。午前中に「学びの時間」として40分授業を5時間、午後は「活動の時間」として活動を中心とした時間割編成を開発し、児童が生き生きと学習現在在籍している大学は仙台市市街地の西側に位置し、仙山線を起点として多くの住宅地が広がる地域にある。一方で、大学付近には京都の東山五山に並ぶ北山五山の寺院点在し、江戸時代末期に「開国兵談」などを執筆し幕府からこの地に幽閉された林子平が眠る龍雲院などもあり、新しさと歴史が融合していることが特色となっている。特に、歴史に興味があるため、講義の合間を見て旧跡を訪ねることを行っている。や活動に取り組んでいます<sup>(1)</sup>。

1単位時間を40分としたことにより生み出される時間は、年間で計85時間となります。この85時間を弾力的に運用できるとしたら、どのような実践を構想したいかについて述べなさい。(600字以上1000字以内)

(1) 目黒区教育委員会(2023)40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発(2023) <https://www.city.meguro.tokyo.jp/documents/8157/c.pdf>

### 【解答 or 解答例】

21世紀をたくましく生きる人間性豊かな児童の育成が求められているが、その具体的な方法として創意工夫ある教育課程の創造や85時間の時間の扱いなどが検討され実践されていることは、大学院修了後小学校教員として活動することを希望している私にとって重要な方向性であると考えます。

現在在籍している大学は仙台市の西側に位置し、仙山線北山駅や東北福祉大前駅などを起点として多くの住宅地が広がる地域にある。一方で、大学付近には北山五山の寺院が点在しており、江戸時代末期に「開国兵談」などを執筆し海防の必要性を幕府に上奏した林子平が眠る龍雲院などもあり、新しさと歴史が融合していることが地域の特色となっている。学部ではこの地域の調査を基に「林子平とその教材化」について卒業論文を執筆した。

このことを踏まえて第3学年での実践事例について構想していきたい。85時間の時数を大きく2つに分け、前半の40時間を十分に見学に時間をかけたり、古くから地域に住む方々への聞き取り調査を行ったり、人とのかかわりを大切にしたい学びを計画していきたいと考える。自分の目や耳で見聞きしたことを基に思考力を深める学習になるよう配慮していきたい。

後半の45時間では、調査して分かったことを地図や新聞等にまとめたりする時間を確保し、児童の表現力を育てていきたい。年度末にはこうした活動をまとめる時間を確保し、授業参観等で保護者や地域の方々にも公開するなどのオープンな学びを展開していきたいと考える。地域には外国からの留学生も多く生活しているため、こうした方々との交流も含むことで多文化共生社会の実現

にも寄与できる時間にもしていきたい。また、学習の成果や参加者の感想等も学校のホームページで外部への発信し、学びの循環を創り出していきたい。

将来どのような地域で教員になるか不安を感じることもあるからこそ新しい教育の方向性に沿った弾力的な教育構想についてさらに調査や考察を基に深く学んでいきたいと考える。(818字)

## 【出題意図】

21世紀をたくましく生きる人間性豊かな児童の育成が求められており、教育現場では創意工夫を生かした学校づくりが進められている教育の動向に対して、①論題を自分事として自分の経験等を基に解釈できているか ②授業を40分にして生み出される85時間の教育をどう構想していくかをおおまかでよいので具体的に記述できているかの2点を重視して出題している。

今後人口減少が顕著になっていることが予測され、このことは学校数の減少、学校規模の縮小等の問題へとつながっていく。経験豊富な教員の大量退職が続いているため、これまでのように多くの先輩教員に囲まれ指導を受けられる状況ではなくなっていく。単学級の担任になることも従来よりは増えていくと推察される。その時に教員としての土台となるのは、学生自身が教育課程を自ら考え自ら構築していく能力とその意欲が身に付いているかどうかである。

本論題では、大学院入学に当たり、そのことを自らの課題として受け止め、論題に取り組んでいる中に教員としての資質能力や意欲等を見出していきたいと考えている。

また、字数制限を600字～1000字としているため、論題の解釈・自分の経験等・構想事例・将来への展望の4点での記述で、概ね800字程度でまとめられていることが望ましいと考えている。

## ●中等教育に関する問題

### 【問題】

令和7年9月26日におこなわれた、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程企画特別部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループの「社会・地理歴史・公民WGに関する現状・課題と検討事項」の参考資料5—②に、「小・中学校における地域調査（フィールドワークや聞き取り調査）の現状と課題」が示された。

その中に、中学校で「地理的分野においてフィールドワークや聞き取り調査などを取り入れて指導をおこなっていますか」という問いに対して、「行っている・どちらかといえば行っている」と回答した割合は、中学1年では11.9%、中学2年では10.7%（出典：令和5年学習指導要領実施調査 暫定値）という結果が示された。

なぜ、中学校では地域調査の実施率が低いのか。地域調査における中学校の課題と中学校における地域調査未実施による弊害について説明し、実施率を上げる対策を提言しなさい。

### 【解答 or 解答例】

1：地域調査における中学校の課題

- ・教科担任制で50分間の授業内での実施が難しい
- ・安全面での確保が難しい
- ・教師が地域調査についての知識・経験が不足しており、具体的な指導ができていない。
- ・年間授業時間が足りていない。
- ・実施や準備に多くの時間がかかり、働き方改革に逆行している。

2：中学校における地域調査未実施による弊害

- ・生徒が正しく空間的な広がりについて認識できていない。
- ・生徒が科学的に調査する手法が理解できていない。
- ・地域に対する実体験を伴った体験が不足しており、地域への愛着や社会に参画する態度が養われていない。

### 3：実施率を上げる対策

- ・総合的な学習の時間、防災活動、遠足などの学校行事と組み合わせての実施
- ・管理職や退職教員、教育実習生などの活用
- ・地域人材の活用や家庭との連携
- ・教員研修との充実
- ・歴史的分野と有機的に接続した地域調査の実施

## 【出題意図】

本出題は、令和7年9月26日におこなわれた、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程企画特別部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループの「社会・地理歴史・公民WGに関する現状・課題と検討事項」の参考資料5―②に、「小・中学校における地域調査（フィールドワークや聞き取り調査）の現状と課題」に基づくものである。

大学院に入学する意志を持っているのであるならば、最新の教育動向を把握していることはとても大切なことであると考えます。そのため、最新の教育動向の資料を基に出題しました。模範解答は、その資料に書かれていることなので、受験者がその資料を見ているならば、容易に解答にたどりつけるはずである。

また、中学校地理的分野における地域調査の未実施は中学校社会科地理的分野において解決しなければならない喫緊の課題である。これから本学の大学院で学ぶ受験者の方々にこの点を認識していただきたくこの問題を出題した。

## ●特別支援教育に関する問題

### 【問題】

共生社会の実現に向けて、我が国の特別支援教育を今後どのように推進していくべきか。あなたの考えを述べなさい。

### 【解答 or 解答例】

共生社会とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のことであり、障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会のことを指している。こうした共生社会を実現するための我が国の特別支援教育の在り方について、必要となる視点を以下に述べる。

2006年、国際連合により障害者権利条約が採択され、我が国も2014年にこれを批准した。障害者権利条約第24条によれば、インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供されること等が必要とされている。つまり、共生社会を実現するための特別支援教育の推進に向けては、全ての児童生徒が共に学びながら、個々の教育的ニーズに応じた支援を受けられるインクルーシブな教育システムの構築を核として進められるべきである。

このようなインクルーシブ教育を推進していくためには、通常の学級における支援体制の充実が不可欠である。一人ひとりの児童生徒の実態や特性に基づく合理的配慮の提供、「誰もが分かる」ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを前提とし、全ての児童生徒にとって分かりやすく、授業参加しやすい学習環境を整えていく必要がある。こうした環境を整備するためには、教師の意識改革と専門性の向上が不可欠である。従前行われてきた一斉指導の教示方法から、一人一人の教育的ニーズに対応するための合理的配慮を取り入れた授業スタイルへの転換、発達障害やその他の障害の特性理解、行動支援に関する知識や技能を全ての教員が身に着けることが望ましい。

共生社会の実現に向けた特別支援教育を推進していくためには、「誰一人取り残さない教育」を実現するための教育システム全体の改革が必要である。今後さらに、個別最適な学びと協働的な学びを軸にしながら、多様な児童生徒が共に成長していける教育環境を整備していくことや、このような教育を実践できる高度な専門性を有する教員を育成していくことが望まれる。

### 【出題意図】

2006年、国際連合により障害者権利条約が採択され、我が国も2014年にこれを批准した。この

ことにより、インクルーシブ教育システムの構築は我が国の特別支援教育の喫緊の課題となっている。現在の学校現場には、いじめや不登校、校内における暴力の低年齢化といった様々な課題が山積している。共生社会の実現を目指す我が国の学校教育において、全ての教員が障害理解や行動理解、個に応じた支援の必要性について深く理解していく必要がある。